



林 敏嗣(はやしとしつぐ)  
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



地球温暖化による海面上昇により、世界で一番早く沈む国と呼ばれているツバル。国外移住政策が練られる程、事態は深刻であるこの国に、今こそノアの方舟を必要とされているが、伝説のように一部が生き残る移住政策をよしとせず、歴史・伝統・文化が根付いた母国で暮らし続けていきたいと望んでいる。

そこで本計画では、ツバルの中でも一番早く水没する集落を計画敷地とし、国の記憶と領有権の保持するための護岸、生活基盤の整備、観光プログラムの導入を行い、国の記憶と共に生きる事のできる方舟=集落の再構成を目的とする。

ツバルの国名には8つの島の人々が協力し、国を築いていこうという意味が込められている。国が水没から守られる事で、ツバルはこれからも発展し続ける。



#### 講評

南太平洋に浮かぶ島国ツバルを地球温暖化による水没から救うプロジェクトを扱った、まさに地球的社会問題に対して、具体的な解を求めて真摯に取り組んだ、壮大なスケールの作品である。テーマの立て方、計画のプロセス、全体としての論理的組み立てが優れていて、プレゼンテーションもとても美しい。建築デザインとしては、もともと島にあったアイデンティティと木材を生かした設計を志向している点が評価されるが、風車や住居のデザインについては、素材にリサイクル材を使いながらも、新しい島の歴史を創っていくようなオリジナル・デザインの提案が欲しかった。「国土を救う」というテーマからは、首都フナフティを含む、国土全体の水没対策プログラムを示す事で、より説得力のある作品となっただろう。(審査委員：青井 俊彦)